

## 岩手の山路に“南部牛追唄”が流れた日

太宰治風にいえば——「南部牛追唄」には不思議と尺八がよく似合う。

“田舎なれどもサー 南部の国はサー 西も東もサー 金の山コラサンサー”

幾重にも重なる山脈を、渺々とした竹管の音色がもの悲しくゆったりと流れる。

日本民俗学の父といわれた柳田国男は、日本の民謡には、それを歌う目的と場所がはっきりと決まっていることから、これを十種に分類し、馬子唄ないし牛方唄は“道歌”つまり、歩きながら歌う“道中歌”と性格つけた。

まだ鉄道やトラックなどの強力な輸送手段がなかったむかし、牛や馬は舟と並んで重要な輸送手段であった。牛方や馬方は、そうした時代の先端的な職業のひとつで、南部牛追唄は、そんな時代に、岩手県の三陸海岸から奥羽山脈のふところ深く、盛岡——雫石——沢内と通じる通商路を、当時の生活物資を運びながら、牛方たちが気ままに口ずさんだ歌である。したがって、元唄には決まった節はなく、牛方それぞれが思い思いに歌っていた。長くて起伏の激しい山路、牛の歩みはのろく、峠の道や平坦な高原では遠くに岩手富士をのぞみながら、雲のように、あるいはかげろうのように山を越えていったのである。牛方たちの仕事は、三陸海岸の塩や海産物を内陸の町や村に届け、内陸の

ミート de meet

解凍したら再凍結はしない

ブロック肉を冷凍保存するに  
は、肉を小分けにし、あらかじめ  
作る料理を決めておきます。

使いやすい形態に切り、冷凍し  
ます。一回で使いきる量ごとに小  
分けして冷凍するとよいでしょ  
う。もう一つ注意することは、解  
凍したら再凍結しないことです。  
再凍結すると鮮度を損ない、品  
質が著しく劣化してしまいますの  
で避けてください。

米や雑穀を太平洋岸の漁村に持ち帰ることであった。そして、牛方たちが伝える町や村の情報が、牛方ロードの人々の心を結びつけた。

“ごんど来る時サー 持て来てたもれや 奥の深山のサー  
ナギの葉をコラサンサー”

牛方たちは、頭に独特の編み笠をかぶり、背には道中の日用品を入れた小ぶりのかごを背負い、牛の背中に左右にふり分けた大きな荷駄にだとともに “牛方ファッション” とも

よぶべき特有の風俗をつくっていた。そして、一人の牛方が、一度の往来に、七、八頭の牛を駆使したといい、これまた独特の「バー、バー」というのどかな掛声で牛を追った。終点の沢内村までは七日間の旅。その沢内村には

浮世はなれた 牧場まきばのねやで

牛と添い寝の コリヤ草枕

という別世界があった。牛方たちの心が真底ゆるむときであった。